



## 子ども達の平和で幸せな未来のために



理事 小原 章

7月に集団的自衛権を容認することが閣議決定されました。また昨年12月には特定機密保護法が成立しました。少しずつ世の中が動いているような気がします。戦時中のような社会になることはないと思いますが、なぜか不安な気持ちになってしまうのは私だけでしょうか？

私の父親は満蒙開拓民として海を渡り、その後軍隊に入り、戦争に参加することとなりました。敗戦後、捕虜として旧ソビエトに抑留され数年後ようやく日本に帰ってくることができました。生前私に、目の前で友が亡くなっていったこと、自分も銃で尻を撃たれたこと、行軍の疲労で眠りながら歩いたこと、捕虜時代のつらい体験などを話してくれました。戦争ほど愚かなことはない、日本は二度と戦争なんかしてはならないと、私にも保育園の子ども達や職員、保護者にも言い続けていました。

日本では69年もの間、平和が続いています。日本中の誰もが平和が「当たり前」なのです。しかし、今もまだ世界のいろいろな国で戦争は起こっています。たくさんの方が命を落とし、悲しみと憎悪が生まれ、また戦いが広がっていきます。負の連鎖が起こり、テロという形で平和な街にも恐怖と悲しみが生まれています。人間の愚かさを嫌と言うほど感じます。平和を願わない人間は多分いないでしょう。しかし戦争は起こる。一人一人の人間ではなく、大勢の人間が集まった「国」という形になり巨大な歯車が動き出した時、一人の人間の力ではどうしようもなく巻き込まれていくのです。人類は歴史の中でずっとそれを繰り返してきました。しかしその悲惨な経験をしながらも核兵器の軍縮など少しずつではあるけれども賢くもなっています。いつかは世界中で戦争が無くなることを願いたいものです。

集団的自衛権の容認については賛否両論があるようです。その是非をここで問うことは控えたいと思いますが、このことを機会に「平和」について「戦争」について職員や保護者と一緒に考えるきっかけとしたいと思っています。子ども達にも伝えていかなければなりません。現在、戦争を体験した日本人は少なくなっています。国を動かす政治家や官僚の皆さんもリアルな戦争を知りません。これから日本の未来を担っていく若者たちも同じです。人が幸せに暮らすための必須条件が「平和」だと思います。その平和を守るためには「戦争」の悲惨さ、愚かさをすることも大切です。我々保育園は子ども達の命を守り、育み、幸せを願いつづけることが使命です。それを実現できる社会を創っていくことは我々大人の使命です。子ども達の未来が平和で幸せであることを願って今できること、すべきことを実行していきたいものです。

世界中の平和のお手本としてこれからもずっとずっと「戦争の無い国＝日本」であり続けることを願いながら今後も子ども達とかわっていきたくと思っています。